**木彫りの狗児(木彫りの子犬)**

この彫刻はかつて明恵(1173~1232年)のものであった。彼は幼い頃から動物を敬愛し、亡くなった両親が動物として生まれ変わることができると信じていた。彼は特に子犬を愛し、彼の夢記により、私たちは彼がしばしば子犬の夢を見ていたことを知ることができた。明恵はこの等身大の像を常に脇に置いていたとされている。日本の有名な仏師である湛慶(1173~1256年)の作品とされている。